

マレーシア ラブアン国際教育会議及び スポーツ交流事業

<報告書>



目次

1. 実施概要	1
(1) 事業の目的	1
(2) コタキナバルからラブアン連邦領へ	1
2. 国際会議及び視察等	2
(1) ラブアン国際教育者会議出席	2
(2) ラブアン平和慰霊公園（公苑）視察	3
3. スポーツ交流事業	4
(1) ラブアンユースアンドスポーツ庁訪問	4
(2) マレーシアチアリーディング協会訪問	4
(3) マレーシア女性野球連盟訪問	5
(4) 今後の展開について	6

NPO 法人 Save the Asian Monuments

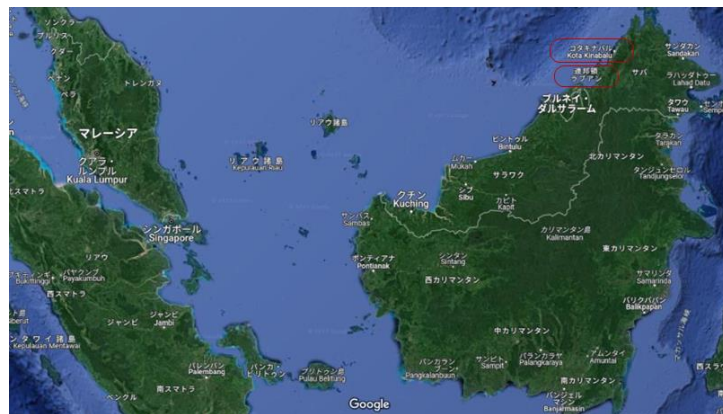
(株) ジャパンインターナショナル総合研究所

Ⅰ．実施概要

（Ⅰ）事業の目的

今回の事業は、NPO「Save the Asian Monuments」の代表・理事長中山信一氏、共同代表・海外側責任者高橋たつや氏から、ラブアン国際教育会議における日本のマザーズコーチに関する講演依頼を「錦町立人吉海軍航空基地資料館」(山の中の海軍の町 にしき ひみつ基地ミュージアム)の副館長平本真子氏に打診され、承諾されたことにより実現した。

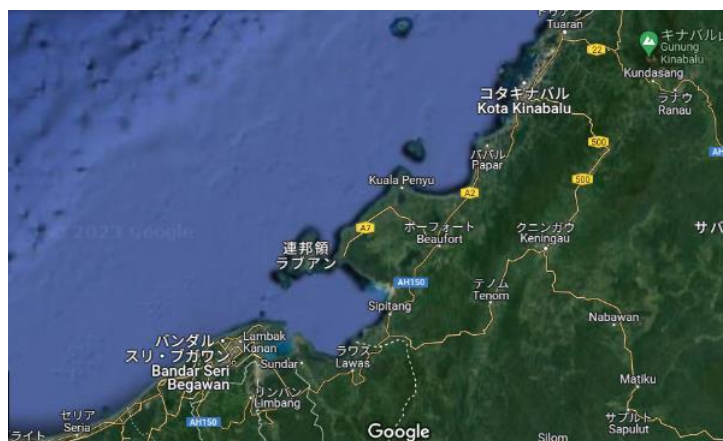
また、マレーシア・サバ州の州都コタキナバルは、第二次世界大戦における太平洋戦争中の激戦地（ボルネオの戦い等）であったことから、様々な戦争記念碑等があり、さらに連邦領ラブアンには「ラブアン平和慰霊公園（公苑）」もあることから、これらを視察することで、上記ミュージアムとの関係性もふまえた事業内容となっている。



▲コタキナバル・ラブアン連邦領 位置図

（Ⅱ）コタキナバルからラブアン連邦領へ

令和5年 10 月 17 日(火)午後、コタキナバル空港からラブアン連邦領へ移動する。ラブアン連邦領は、マレーシア独立後サバ州に属していたものの、1984 年にマレーシア連邦の直轄領となった。



▲コタキナバル・ラブアン連邦領位置図

2. 国際会議及び視察等

(1) ラブアン国際教育者会議出席

令和5年10月18日(水)午後、「ラブアン国際教育者会議」(ラブアン教育局専門講演者評議会 WP2023)に中山氏と平本氏がゲスト発表者として登壇された。ラブアン国際教育者会議は、各学校の校長や関係者がそれぞれの研究テーマについて発表を行う場となっている。

今回、平本氏からは「MOTHER COACHING THROUGH MY EXPERIENCE 私の経験を通したマザーコーチング」と題して、「マザーコーチングを学んだ結果」と「歴史博物館における国際交流の重要性」を重ね合わせ、「子どもを育てる母親同士の交流」や「歴史学習を通じた理解の深化」について発表された。

中山氏からは「Tokkatu/特活」をテーマに実際にエジプトで実施された事例を交えながら、欧米の教育は学習指導が中心であるが、日本の教育には「学習指導」と「生活指導」(「Tokkatu/特活」)の2つの側面があり、「生活指導」(「Tokkatu/特活」)の手法は、非認知能力を向上させる技術として期待されている」と発表された。



▲ラブアン国際教育者会議参加者



▲ラブアン連邦領教育省両副長官と



▲登壇される中山様



▲登壇される平本様

国際教育者会議での講演を行った18日にはラブアンスポーツ庁長官との面談を行い、来年からスポーツ交流を行う相談も行った。



▲ラブアンスポーツ庁長官と



▲スポーツ利用可能なグラウンド



▲地元サッカークラブチームとの交流

(2) ラブアン平和慰霊公園（公苑）視察

令和5年10月21日(土)は、早朝にラブアン平和慰霊公園に訪れた。ここには「ボルネオ戦没者の碑」があり、同碑はマレーシア政府及びサバ州政府の協力を得て、平和慰霊公園の敷地内にボルネオ地域及びその周辺海域で戦没したすべての人々をしのび平和への思いをこめて建立されている。

マレーシア国内のコタキナバルやクダサン、サンダカンなど、サバ州各地に第二次世界大戦の犠牲者を悼むメモリアルパークはあるが、いずれも連合軍(イギリス、オーストラリア、ニュージーランド)の戦没者のもので、ボルネオ、少なくとも現マレーシア領内において、日本政府によって建てられた公式の慰霊碑があるのは、ラブアン連邦領の平和慰霊公園だけとなっている。この慰霊碑が建てられている平和慰霊公園内には、1945年に日本軍が降伏した際に連合軍との間で正式な調印が行なわれた場所であり、降伏地点記念碑(Surrender Point Memorial)がある。

このラブアン平和慰霊公園は、さきの大戦中、ボルネオ地域及びその海域で戦没されたすべての人々を慰霊するとともに、世界の恒久平和を祈念し、日本とマレーシア両国の友好親善の広場となることを願って建設されたものである。この建設にあたっては、マレーシア国政府、サバ州政府、ラブアン及び日本政府の協力と、財団法人日本船舶振興会から多大の補助金の交付を受け、また遺族関係団体、戦友関係団体企業などからも格別の援助を受けて完成したものであるとされている。(公園入り口の説明より)

公園管理者によると、厚生労働省がラブアン市評議会に委託して、慰霊碑の掃除、敷地内の除草、周辺植栽の伐採、巡回などを行っているが、日本人がここにまったく訪れないことを残念に思っているという。



▲ボルネオ戦没者の碑



▲降伏地点記念碑



▲平和塔碑



▲平和塔碑裏説明文

3. スポーツ交流事業

(1) ラブアンユースアンドスポーツ庁訪問

令和6年3月13日午前、ラブアンユースアンドスポーツ庁を訪問し、Mahanum Binti Fauzi 新長官と面会を行った。

コロナと円安の影響で日本人の海外渡航が多くないが、将来、避寒でラブアンに合宿キャンプを行う機会があるためご協力願ったことを受け、長官からは「ラブアンはじまって以来の女性ユースアンドスポーツ長官なので、女子サッカーやチアリーディングの交流を許可し、いつでも合宿や親善試合などを展開してもらえると有難い。スポーツ交流の一環で、合宿する予定やラブアンのスポーツ競技に興味ある日本人選手、クラブとラブアンにあるチームや選手とオンライン交流を行い、徐々に交流を深めたら、日本のチームへ何人かのラブアンの選手を短期研修させたい考えもある」と回答をいただく。また、イスラム教で保守的なマレーシアでは、これから女性のスポーツを発展させる必要性を持っており、クアラルンプールには女子野球連盟とチアリーディング連盟の可能性も打診していただく。



▲フェリックス副長官(左)、ファウジ長官(中央)、トニー(右) ユースアンドスポーツ庁にて

(2) マレーシアチアリーディング協会訪問

令和6年3月13日午後、クアラルンプールにある、マレーシアチアリーディング協会の Lin Chin Hau 会長と面会を行った。

Lin Chin Hau 会長からは「ここ4年で一度、チアリーディング協会は機能を失った。そして再び息を吹き返し、3,000人の会員を持つようになった。寄付と差し入れで成り立っているが、SNSの影響で入会する数が増えている。イスラム教の規制はあるが、青少年スポーツ省の大臣が女性であることが影響し、チアリーディングに注目を置くマレーシア人が増えている」と現状を伝えていただく。

SNSの普及で、日本のチアリーディングの模様を見て参考にしているとのことで、本協会に日本の顧問やチア団体が来て交流をしたことはないが、興味あれば、観光プラスで文化交流として訪ねてもらい、コーチング、コラボレーションを迎えることができればと考えており、文化交流を手段とし、本協会も日本にある団体、個人へ訪問やコラボレーションをしてもらいたいのが目標であると語っていた。



▲準備風景



▲モールの中にある広場を練習場にする



▲練習の様子



▲練習の様子

(3) マレーシア女性野球連盟訪問

令和6年3月21日、クアラルンプールにある、マレーシア野球連盟附属女性野球連盟本部の Sazali Husain 本部長と面会を行った。

Sazali 本部長からは「コロナウィルスで、マレーシアはロックダウンを経験し、女性野球連盟も機能を失った。回復し始めているがまだ元に戻っていない。良質な野球場を12月に完成させるため、交流をするなら今年の冬からを希望したい」という意向を伝えていただく。また、「文化交流として、クアラルンプールにいる私たちと練習や試合をしたい日本の野球チーム(男女問わず、女性チーム、男女混合チーム)がいたら、オールシーズン承りたい。チームのみならず、現役、退役、学校所属、フリーの監督がいれば、無報酬になるが、休暇のついでに遊びに来てこちらの選手を教えて欲しい」「2018年に島根県米子市で行われた世界少年少女野球大会で、日本の選手のチームワークを学べた。野球チームとチアリーディングの団体や個人、それ以外でも国際交流目的等で日本全国の野球チーム、チアリーディングの個人や団体がクアラルンプールへ来て欲しい」という意向も持っている。

サッカーやバドミントンと違い、野球の人気はインドネシアや台湾と比べるとそれほど高くないが、日本の女性野球選手をSNSで見たりして女性の野球に対する情熱や人気は日々上がっているらしい。Sazali 本部長はコロナによって既成概念が変わり、新しい価値観が生まれ、女性野球もこれから注目されると言っていた。スポーツ版スタディトリップとして、「観光+野球」でふれあいの機会を創出できればと考える。



▲女性選手のユニフォーム姿(左から中華系キリスト教、マレー系イスラム教、インド系イスラム教)

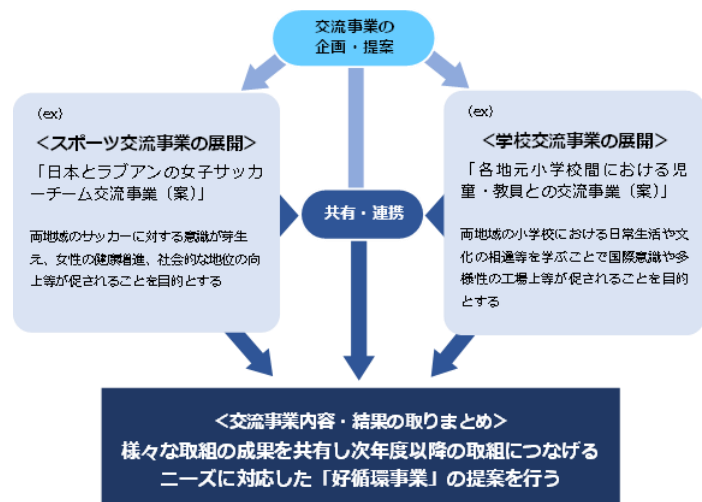


▲練習の様子

(4) 今後の展開について

今回のマレーシア ラブアン国際教育会議及びスポーツ交流事業は、国際会議という場に出席するだけでなく、第二次世界大戦における太平洋戦争の戦争遺跡・記念碑を多数視察することができるなど貴重な経験となった。

また、今回の視察の中では、多くの現地関係者と意見交換を交わすことができた。特に、ラブアンユースアンドスポーツ庁の長官や各種スポーツ関係者、地元スポーツクラブと意見交換・交流の機会を創出できたことは、今後多様な交流事業の可能性を含んだものとなっている。この実績を活かし、マレーシアと日本双方の歴史・文化、さらにはスポーツを通じた人の交流を図り、地域経済の活性化や人と人との絆づくりに寄与する交流事業を提案・展開していく。



マレーシア ラブアン国際教育会議及びスポーツ交流事業報告書

発行年月 令和 6 年 9 月

【NPO 法人 Save the Asian Monuments】

〒135-0046 東京都江東区牡丹 3-25-7

TEL:0942-72-2111 (代表) E-mail:nkym041@gmail.com

【(株)ジャパンインターナショナル総合研究所】

〒601-8203 京都市南区久世築山町 99 番地

TEL:075-924-2582 E-mail:y-nakamura@n-shuppan.co.jp
